

第1回みやぎ連携復興センター検討会議事録

日時：2015年3月25日（水）18:30～20:30

会場：仙台市戦災復興記念館 4F第一会議室

出席者：一般社団法人パーソナルサポートセンター 立岡学 様
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 明城徹也 様
宮城大学 鈴木孝男 様
気仙沼NPO/NGO連絡会 塚本卓 様
一般社団法人みらいサポート石巻 中川政治 様
特定非営利活動法人都市デザインワークス 榊原進 様
公益財団法人地域創造基金さなぶり 川村文 様
特定非営利活動法人いわて連携復興センター 鹿野順一 様
公益社団法人中越防災安全推進機構 稲垣文彦 様
特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター理事：大滝、新川、紅邑、白木、針生、高橋、渡

辺

スタッフ：桃生、中津

みやぎ連携復興センター 千葉、石塚、三浦、中沢、新沼、宮野、高木

進行：千葉

ファシリテーター：渡辺

記録：中沢、高木

○会議の目的（せんだい・みやぎ代表理事②）

これからのみやぎ連携復興センターの在り方を検討する。主な理由は次の3点。

1. 地方創生も併せて被災者、被災地へきめの細かい対応を考える視点が必要。復興の進み具合や質的变化に対応して役割を変えるときだと感じている。
2. せんだい・みやぎNPOセンター（せ・み）との関係見直しの必要性
3. 連携型組織みやぎ連携復興センターの成立をふまえ、新しい連携の形を考えたい。

○みやぎ連携復興センター（れんぷく）の設立から現在までを説明※配布資料（れんぷく事務局員②）

○せんだい・みやぎ代表理事③が考えているみやぎ連携復興センターの方向性（せんだい・みやぎ代表理事③）

1. 被災地域で活動している団体、行政とのエンパワーメントをしっかりと取り組む。
2. 県外の団体との関係づくりを継続し、広域連携による政策提案に関わっていききたい。
3. 復興支援の先を見据えた地域づくり、街づくりを検討していききたい。

○自己紹介とコメント

- ・各々団体の問題意識としてこの議論を拝聴したい
- ・資金提供で役割分担や連携をしていきたい
- ・せみスタッフとしての役割分担を確認したい（せんだい・みやぎ事務局員②）
- ・多賀城サポセンとして今後も連携していきたい（せんだい・みやぎ事務局員①）
- ・設立構成団体。過去よりも今後について話し合えたらよい
- ・話を聞きながら意見させていただく
- ・地元の企業との連携がまだまだ少ない（せんだい・みやぎ理事②）
- ・せ・み理事としてゼロベースでれんぷくの在り方を考えたい（せんだい・みやぎ理事①）
- ・大学との連携が弱い。学生の被災地への関心も低い。大学との広域連携に期待したい。
- ・設立構成団体。過去をきちんと整理したい。独立はせ・みの総会で決定することではないのか。
- ・れんぷくの動きは見えづらい印象もある。それぞれの団体の強みを活かした連携を図りたい（せんだい・みやぎ理事③）
- ・いわて、ふくしま、みやぎ、3県のれんぷくで声を上げるとき独立法人だと心強い
- ・財源の獲得、制度存続の声上げや地方創生の政策のノウハウを県内全域への展開を期待する
- ・現場で活動している団体に対するれんぷくの役割は大きい。

○設立当時の推移（せんだい・みやぎ代表理事③）

2011年3月18日、構成5団体（ジャパンプラットフォーム（JPF）、パーソナルサポートセンター（PSC）、仙台青年会議所（仙台JC）、被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（つなプロ）、せんだい・みやぎNPOセンター）と協力団体（国際協力NGOセンター、せんだいファミリマルシェ実行委員会、日本赤十字社ほか）でみやぎ連携復興センターとして発足。

広域に支援団体をつなぐ機能が重要ということで、他団体より出向者の協力などによりれんぷくの組織化が進み同年9月、せんだい・みやぎNPOセンターの総会で同センター内に復興支援部門としてれんぷく事務局の設

置が承認された。

○独立について設立4団体の意見

※つなプロは現在解散

- ・これまでの事をどうこう言うのではなく、今後について話し合いたい。れんぷくに期待しているが期待し疲れた部分もある。
- ・JCとしては緊急時の関わりのみ。役割的に今後の団体に関わるのは難しいと思う。
- ・建設的意見を出したいが清算はしたい。設立当時も任意団体立ち上げの話し合いがあったが急に打ち切られた感はある。
- ・いろいろな団体から声を聞く場はその時点ごとに設けていたが説明が足りなかったことはお詫びしたい。結果的にはせ・みの事業として位置づけることについて連携団体への説明が事後承諾なってしまったことは否めない。今後のれんぷくの在り方については建設的に話し合っていきたい（せんだい・みやぎ代表理事③）

○意見交換

- ・これまでは行政から便利な団体だからこそ一定の役割を果たせたとも感じる。復興を進めるためもう一度企業・大学・地域の力を集約する必要だと現場では感じている。（れんぷく事務局員②）
- ・法人であるほうがアドボカシーへの期待値は大きい
（（せんだい・みやぎ理事④）：れんぷくのターゲットや連携先はどこだろうか？）
- ・被災地支援団体や行政や住民自治組織。（せんだい・みやぎ代表理事③）
- ・現在の体制でコミュニティ支援に広く関わるのは難しいのではないかと。行政（国や県）等との連携を深めてほしいし行政機関に関わっていただく仕組みも必要だと考える。
- ・ターゲットというよりもガバナンスの関係性（機能・志）づくりが大切。
- ・団体支援を考えてほしい。繋がりづくり、JCNの現地会議を見てきてこのような関係性づくりをれんぷくに期待する
- ・何をもって関係性を作っていくかを考えた。さなぶりも資金やノウハウは協力できる。助成金事業はできればお任せいただきたい。
- ・多賀城サポートセンターのスタッフとして他の町の状況を知ることが学びになる。その担いはれんぷくや東北コンソの仕事と重なるでしょうか。（れんぷく事務局員②）

○最後に

- ・皆様の意見を頂戴し皆様でれんぷくを作っていただきたい。（せんだい・みやぎ理事①）
- ・独立ありきなのですか？
- ・今後検討会にご参加いただいた皆様のご意見を伺いつつ、その内容についても説明責任を果たして行きたい。また声掛けする団体も広げていく予定。7月独立を目標としたい。（せんだい・みやぎ代表理事③）

○まとめ

- ・担いの領域を広げることも守ることも難しい。ご意見をいただき前進していきたい。（せんだい・みやぎ代表理事①）
- ・次回、目指している団体のたたき台を参考資料として示したい。（せんだい・みやぎ代表理事②）

○次回予定

日時：4月17日（金）18:30

場所：仙台市戦災復興記念館

以上